

教 職 員	回答 39/39			
	そう思う	大体そう 思う	あまりそ う思わな	そう思わ ない
1. 生徒は自己目標にむかって学習に取り組んでいる	17.9%	71.8%	7.7%	2.6%
2. 生徒は満足感や達成感をもち、専門教科(地域協働)の学習に取り組んでいる	28.2%	66.7%	2.6%	2.6%
3. 生徒は満足感や達成感をもち、教科の学習に取り組んでいる	10.5%	65.8%	21.1%	2.6%
4. 生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	47.4%	52.6%	0.0%	0.0%
5. 生徒に働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきている	15.4%	66.7%	17.9%	0.0%
6. 生徒は自分自身のことを肯定的にとらえている	7.7%	64.1%	25.6%	2.6%
7. 生徒の可能性を広げる活動を設定している	12.8%	61.5%	25.6%	0.0%
8. 生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	10.3%	74.4%	15.4%	0.0%
9. 生徒のことが理解できている	12.8%	69.2%	17.9%	0.0%
10. 生徒の自己肯定感を高めることを意識して指導に当たっている	35.9%	56.4%	7.7%	0.0%
11. 生徒は友達の考えや個性を尊重し、認め合っている	10.3%	61.5%	23.1%	5.1%
12. キャリアプランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	5.1%	66.7%	25.6%	2.6%
13. 生徒は自分から積極的に挨拶をしている	17.9%	53.8%	25.6%	2.6%
14. 生徒の得意なことを把握している	20.5%	71.8%	7.7%	0.0%
15. 生徒が適切な食生活を送れるよう指導している	10.3%	56.4%	30.8%	2.6%
16. 生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	23.7%	60.5%	13.2%	2.6%
17. 生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	13.2%	73.7%	13.2%	0.0%
18. 生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	25.6%	61.5%	12.8%	0.0%
19. 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	27.0%	59.5%	13.5%	0.0%
20. 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	23.1%	61.5%	7.7%	7.7%
21. 休日等を実施されている各種スポーツ、文化的催しに参加するように生徒に促している	24.3%	62.2%	10.8%	2.7%
22. 生徒や保護者に短期目標や評価について、適切に伝えている	22.2%	63.9%	11.1%	2.8%
23. 生徒や保護者からの個別の相談に適切に対応している	37.8%	54.1%	5.4%	2.7%
24. 生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	18.4%	63.2%	15.8%	2.6%
25. 保護者に、参観・懇談・学習会等に積極的に参加するように促している	22.2%	58.3%	16.7%	2.8%
【教職員】 ①概ね肯定的な評価であるが、「大体そう思う」という回答が多く、自信のなさや不安等、達成感度が低い(7,8,12,24) ②生徒の実態把握やキャリアプランに基づく指導や支援について、適切な検証を進める必要がある(1,23,5,6,7,9,12,14) ③生徒の学習や生活について教職員の評価が低い様子がうかがえる(1,13,17) ④生徒の家庭生活に関する指導が学校で十分に行えていないと考える教職員が多いことがうかがえる				

保 護 者	回答 109/111			
	そう思う	大体そう 思う	あまりそ う思わな	そう思わ ない
1. 子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	42.2%	43.1%	12.8%	0.9%
2. 子どもは専門教科(地域協働)の授業に満足感や達成感を感じている	29.4%	59.6%	9.2%	0.0%
3. 子どもは教科の授業に満足感や達成感を感じている	14.7%	67.0%	14.7%	2.8%
4. 子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	35.8%	55.0%	4.6%	1.8%
5. 子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度が育ってきた	32.1%	48.6%	16.5%	0.9%
6. 子どもは自分自身のことを肯定的にとらえている	15.6%	49.5%	27.5%	4.6%
7. 子どもには様々な可能性があると思う	55.0%	40.4%	3.7%	0.9%
8. 子どもには一生懸命になれる活動がある	39.4%	46.8%	13.8%	0.0%
9. 子どものことが理解できている	19.3%	66.1%	13.8%	0.0%
10. 子どもの自己肯定感が高まってきている	21.1%	49.5%	26.6%	1.8%
11. 子どもは友達に対して思いやりをもち、認め合っている	32.1%	56.9%	11.0%	0.0%
12. 子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がなされている	22.9%	59.6%	12.8%	3.7%
13. 子どもは自分から積極的に挨拶をしている	36.7%	42.2%	18.3%	1.8%
14. 子どもは自分の得意なことに気づいている	23.9%	45.9%	27.5%	2.8%
15. 子どもは朝ごはんをきちんと食べている	63.3%	22.0%	10.1%	3.7%
16. 子どもには日常的に清潔にするように促している	50.5%	45.0%	1.8%	2.8%
17. 子どもは学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	46.8%	41.3%	8.3%	2.8%
18. 子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	38.5%	35.8%	21.1%	4.6%
19. 企業との連携・協働による学習環境が設定できている	18.3%	58.7%	20.2%	1.8%
20. 地域との連携・協働による学習環境が設定できている	22.9%	66.1%	10.1%	0.9%
21. 子どもは休日にリフレッシュできる活動をしている	30.3%	39.4%	24.8%	3.7%
22. 短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	31.2%	52.3%	11.9%	2.8%
23. 個別相談について、学校は保護者に適切に対応している	33.0%	54.1%	8.3%	1.8%
24. 保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	30.3%	62.4%	6.4%	0.9%
25. 保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している	24.8%	43.1%	28.4%	3.7%
【保護者】 ①教育方針や実践に対して、概ね肯定的な評価であるが、「大体そう思う」であり、更に丁寧な説明や情報提供を行う必要があると考える(2,3,4,8,12,22,23,24) ②約9割5分の保護者が、子どもの可能性を感じているが、多くは明確化されていない(7,9) ③多くの保護者が、基本的な生活習慣の確立できるように子どもに促している(15,16,18) ④懇談会や学習会の充実を図る必要がある(12,25)				

生 徒	回答 111/111			
	そう思う	大体そう 思う	あまりそ う思わな	そう思わ ない
1. 今、現在の自分の目標がわかっている	50.5%	43.2%	3.6%	1.8%
2. 目標に向かって学習に取り組んでいる	50.5%	36.0%	10.8%	2.7%
3. 専門教科(地域協働)の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	64.0%	23.4%	7.2%	5.4%
4. 教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	56.8%	30.6%	8.1%	4.5%
5. 職場実習で「できた」「うれしかった」ことがある	58.6%	28.8%	9.9%	0.9%
6. 働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身についてきた	36.9%	45.0%	11.7%	5.4%
7. 自分のことが好きである	29.7%	24.3%	25.2%	19.8%
8. 自分にはできることがたくさんある	36.0%	31.5%	22.5%	9.9%
9. 自分には一生懸命に取り組んでいる活動がある	47.7%	29.7%	15.3%	7.2%
10. 自分のことを理解してくれる人がいる	56.8%	24.3%	14.4%	3.6%
11. 自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている	35.1%	27.9%	22.5%	13.5%
12. 友達の考えや個性を理解し、認め合うことができる	40.5%	40.5%	10.8%	7.2%
13. 先生は「何のために勉強するか」をわかりやすく教えてくれる	58.6%	30.6%	7.2%	3.6%
14. 自分から元氣よく挨拶ができる	45.9%	31.5%	17.1%	5.4%
15. 自分の得意なことがよくわかっている	55.9%	29.7%	9.0%	4.5%
16. 朝ご飯をきちんと食べている	63.1%	17.1%	9.9%	8.1%
17. 清潔にすることを心がけている(例えば、入浴、着替え、汗をふくなど)	68.5%	25.2%	5.4%	0.9%
18. 学校のきまりや約束を守っている	50.5%	29.7%	13.5%	5.4%
19. 家庭で決まった役割(例えば、お手伝い)があり、実行している	54.1%	26.1%	9.0%	10.8%
20. 企業の協力があり、職場実習などができていることに感謝している	62.2%	28.8%	5.4%	3.6%
21. 地域の協力があり、地域との活動ができていることに感謝している	59.5%	25.2%	8.1%	7.2%
22. 休日は趣味やスポーツ、サークル活動などにとりくんでいる	51.4%	20.7%	10.8%	17.1%
【生徒】 ①約9割の生徒が、学習の目的を理解し、その目標に向かって取組んでいると評価している(1,2) ②約9割の生徒が、授業や実習で達成感を感じている(3,4,5) ③約9割の生徒が、仲間、地域、企業等と良好な関係であり、その存在の大きさに気が付いている(20, 21) ④約8～9割の生徒は、規範意識や家庭での生活習慣が確立していると見ている(16,17,18,19) ⑤約7割の生徒は、余暇活動に取り組んでいる(22) ⑥自分の良さを実感し、自己を肯定的に見られる生徒の割合が約6割程度を若干低い(7,11)				

【3者のまとめ】 ①全般に、教職員の生徒に対する評価がやや厳しい。学習面では、生徒のほとんどが達成感や充実感を感じているが、教職員の肯定的な回答率が低くなっている。特にその傾向は教科の学習について差が大きく、確認がいる。 ②挨拶や規範意識についても、同様の傾向がある。	③自己受容・自己評価に関しての項目について、生徒の肯定的な回答率が高いが、保護者、教職員の回答率とに開きがある。 ④保護者は生徒の可能性を感じているが、生徒自身は保護者程感じていない。教職員は、可能性を広げる活動を十分にしていないと感じていたり生徒自身が自分のことを肯定的にあまりとらえていないと感じている等肯定感に関して3者のとらえに違いがある	⑤企業の連携・協働における成果を認めつつも、その学習環境の設定については改善の余地があると、保護者は考えられている。あまり設定していないのでは、と思われる回答率の高さが予想以上である。 ⑥キャリアプランに基づく指導や支援に関して、生徒と教職員との受け止め方に差があり、それが保護者のキャリアプランに関する評価への繋がりが見える。
--	--	---

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立白河総合支援学校東山分校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力(働く力の向上と言語活動の充実)
2. 豊かな心の育成(文化的な教科・活動の充実と支え合う仲間作り)
3. 健やかな体の育成(仕事をやり遂げる体力の充実と安全意識の向上)
4. 独自の取組(学びの環境をデザインする)

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年10月14日	評価日	平成27年10月26日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策
1	確かな学力	専門教科・共通教科・実習の充実 自ら考え、表現し、他者に伝える力の育成	振返りや気づきを基にして教科や専門教科につなげる ・来校者に学校説明のプレゼンテーションや専門教科での説明や案内を行う ・地域協働活動での説明、宣伝活動、振返りを行う	・「できた」「うれしかった」といった達成感や充実感を感じている ・オープンキャンパスや学校見学等の参加回数 ・地域協働活動への参加回数 ・修学旅行生の観光案内回数 ・PTA陶芸教室回数	⇒	・教科や専門教科での課題や評価が適切に生徒に伝わっていない場合がある ・オープンキャンパスの案内や専門での説明を自分の言葉で説明しようとする生徒が増えている ・臨機応変な対応ができる生徒もいる	⇒	・生徒が見通しをもち、主体的な活動が見られるようになった。 ・生徒自身のキャリアプランについての理解や活用が十分とはいえない ・職場実習に対する教職員の捉え方が弱い	・生徒による事業の定期開催や運営を任す場面を作っていきたい ・日々の教育実践がキャリア発達を促していると教職員が評価できるような仕組みがある
2	豊かな心	企業や地域との協働活動を通じた豊かな心の活動と育成 自己肯定感の向上	・コミュニケーションの充実を図る ・職場実習 ・高齢者体操教室、配食サービス、ディサービス介助、読み聞かせの協働活動 ・多様な人との関わり ・職場実習 ・高齢者体操教室、配食サービス、ディサービス介助、読み聞かせの協働活動	・企業や地域との協力に感謝の気持ちを持っているか ・自分にはできることがたくさんある ・自分は大切な存在だ、かけがえのない存在だと感じている ・自分のことがすきである	⇒	・企業や地域の方との活動について達成感や満足度が高く感謝の気持ちにつながっている ・自己肯定感を適切に育成することが課題である ・地域協働の回数が増え、地域の小学校、保育園との交流も広がった ・指導者がいなくても自分から地域の方と話ができるようになってきた	⇒	・企業や地域の方との活動による活動の成果を生徒が客観的に気づける振返りの場を設定する ・生徒に対してプラスの評価を積極的に行う ・地域協働活動の開発と更なる充実を図る ・繰り返しできる活動を増やす	・地域協働の内容が明確になってきた。 ・大きな地域行事を通じて地域と学校、生徒との連携が深まった。 ・地域にとって大きな戦力となっており、地域として大変感謝している。 ・多様な生徒が活動できるように、学校と連携しながら、場の提供や協力できることを考えていきたい。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立	食生活や衛生に関することへの呼びかけ	・朝ご飯を食べている ・清潔な心がけている ・家庭で役割を担う	⇒	・朝食を食べていない生徒が数名あり、課題である ・清潔に関して、自ら気づき、実際の程度までできているかが課題である	⇒	・就労生活に向けて、自分で食生活を整えられるような指導を計画的に進める ・衛生に関する指導と支援を継続して行う	・保護者の協力や理解が得られていると感じる。
4	独自の取組	学びの環境の多様化 情報発信の充実	・学校祭を地域協働の一環としての位置付け ・生徒会活動の充実 ・積極的なホームページの更新	・新たな地域の方との関係を築く ・自主的な活動を促す ・マスコットの決定・エコキャップ運動・挨拶運動等 ・学校ホームページの掲載数	⇒	・多様な人々と多様な関わりにより、生徒の達成感があった ・次に繋がる活動や目標を見据える ・学校の様子だけでなく行事や施設利用の案内などこまめに更新する	⇒	・取組について何のために何をするかについての教師間の情報共有を確実にする ・生徒自らの活動を情報発信できる取組を進める	・地域も同じ歩調で関わっていきたい。 ・お手伝いをしてもらっているではなく、一緒にする感覚で接する